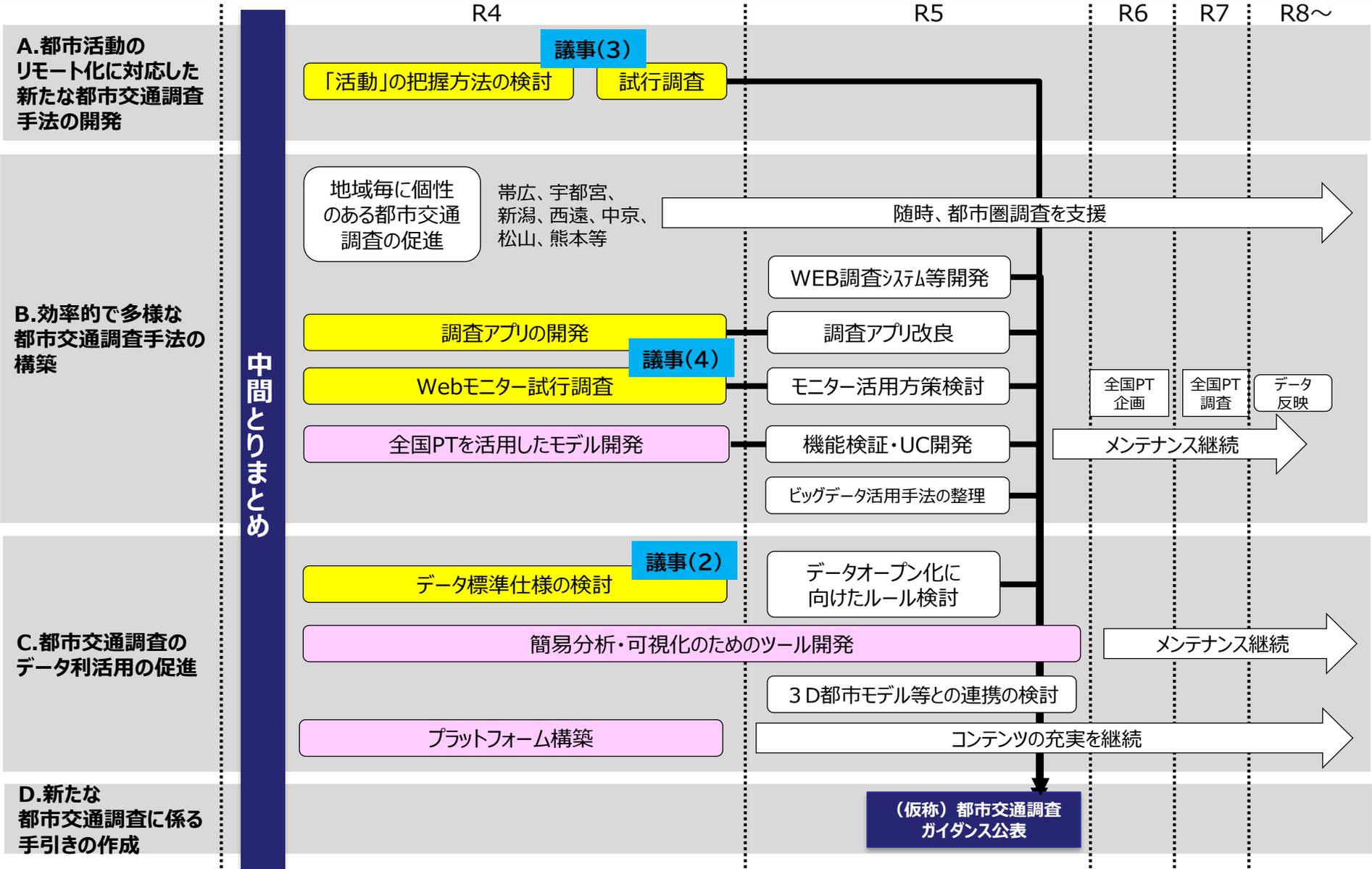


新たな都市交通調査の実現に向けたロードマップ



Yellow box: 第7回検討会（本日）で議論

Pink box: 第8回検討会で議論

中間とりまとめと本日の検討会との関係

中間とりまとめより

A. 都市活動のリモート化に対応した 新たな都市交通調査手法の開発

- ・活動のニーズ、ニーズを満たす場所、移動の有無、が捉えられ、都市空間における人の活動や移動の実態を、原因も含めて把握可能な調査手法の開発

B. 効率的で多様な都市交通調査手法の構築

【スマートフォンアプリによる回答促進】

- ・各都市圏が利用しやすいWeb調査システムやスマホアプリ等を国が開発し、それを各地方公共団体が利用できるように検討を促進
- ・開発だけでなく、更新しつづける仕組みとあわせた検討が必要
- ・アプリのダウンロードの負荷等を考慮し、回答者へのインセンティブの付与についても検討

C. 都市交通調査のデータ利活用の促進

- ・調査実施を効率化するため、企画や実施にあたり共通化できる部分については共通仕様を定めることが有効である。
- ・各都市圏が異なる課題を抱えていることを考慮し、地域個別に対応できるように自由度を残しておく
- ・都市圏が独自に挑戦する調査については、国が積極的に後押しし、結果のフィードバックを得て、調査の共通仕様の見直しを継続的に実施

本日の検討会との対応

議事（２）PT調査データの標準仕様

- ・PT調査の調査票に関する検討の効率化を図るとともに、データ活用の利便性を高めるため、調査項目や選択肢の標準的な仕様について検討中

議事（３）活動に着目した都市交通調査 手法の開発

- ・活動も把握する調査票を検討中
- ・調査票に対するインスペクション調査を実施予定

議事（４）調査の効率化に関する検討

- ・検討会でWebモニター活用についてのご指摘があったことを踏まえ、以下２点の検討を推進中
 - ① スマートフォンアプリの開発
 - ② Webモニターを活用した調査の効率化